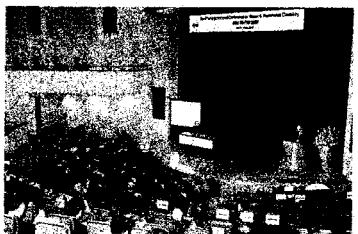
グリーン・サステイナブル・ケミストリー　第4回シンポジウム開催

きょう8日―9日　東京・学術総合センター　一橋記念講堂　GSCN主催

化学技術革新で拓く環境新時代

「人と環境の健康・安全」持続可能な社会の実現へ

GSC



昨年行われた第3回シンポは第1回の国際会議として開かれた

活動をステップアップする場に

産学官が一堂に　最先端情報充実

「人と環境の健康・安全」を目指し、持続可能な社会の実現に貢献する化学技術、グリーン・サステイナブル・ケミストリー（GSC）に関する第四回シンポジウムが、きょう8日から2日間の三日間、東京都千代田区の学術総合センター一橋記念講堂で開催される。主催するのは、日本化学会（日本化学工業協会などが加盟する団体）傘下のグリーン・サステイナブル・ケミストリー・ネットワーク（GSCN、会長・田代勝寿一・経済産業省、文部科学省、環境省などが後援する。GSC活動を実践する各生産の関係者が一堂に会し、最新情報の発信を行うとともに、今後の展望を共有することによって、わが国におけるGSC活動を一層推進することが目的である。

昨年行われた第三回シンポジウムは、本格的な第一回の国際会議として開催された。世界十七カ国から化学者集のトップマネジメント、第一線の研究者、政府関係代表ら約百名が参加した。今回は、GSCの重要性を再認識するとともに、日本の産官一体となったGSC活動そのレベルの高さを世界に示した。

今回は経済産業省、環境省、厚生労働省、文部科学省、学術会議からの参加者をはじめとする国際講演、GSCに関する研究発表、ポスター展示が行われる。

第一の目的は、化学産業の国際競争力強化の観点からGSCの重要性を認識し、GSCの推進のためのスクラップアンドビルドの実践、科学的根拠を持ったマネジメントの実践、GSCは、持続可能な社会を実現するための要となるものであり、化学技術と化学産業にとっては新たな発展方向を示すものである。

各方面から最新の研究成果が持ち寄られる今回のシンポジウムが、国際的にも高い評価を得ているわが国のGSC活動をさらにステップアップする場となることが大きく期待される。

資源生産性高め価値創造　化学の新たな潮流に

GSCN運営委員会
安井　至　委員長
（国連大学副学長）

インタビュー

◆GSCNは、「人と環境の健康・安全」を目指し、持続可能な社会の実現に貢献する化学技術、グリーン・サステイナブル・ケミストリー（GSC）を推進する。GSCNは、二〇〇年三月に十団体の参加で設立され以来、さまざまな活動を通じてGSCの考えを社会に啓蒙し、それにつれてネットワークも広がりを見せている。GSCN運営委員会委員長の安井至国連大学副学長に現状と今後の展望を聞いた。

シンポジウムは、日本化学会や日本化学工業協会をはじめ、わが国の化学関連の学協会や業界団体、厚生労働省など二十三団体によって構成されるグリーン・ネットワーク（GSCN）が運営する。GSCNは、二〇〇年三月に十団体の参加で設立され以来、さまざまな活動を通じてGSCの考えを社会に啓蒙し、それにつれてネットワークも広がりを見せている。GSCN運営委員会委員長の安井至国連大学副学長に現状と今後の展望を聞いた。

◆GSCNは、「人と環境の健康・安全」を目指し、持続可能な社会の実現に貢献する化学技術、グリーン・サステイナブル・ケミストリー・ネットワーク（GSCN）の考えを社会に啓蒙し、それにつれてネットワークも広がりを見せている。GSCN運営委員会委員長の安井至国連大学副学長に現状と今後の展望を聞いた。

――インタビュー

学術会議に対する一般社会のイメージは、ずんぐりしてよくない。人工化学物質なんていうとどうでも良いものだという感覚になるかも知れない。いままで市民とのダイアログ（コミュニケーション）が本当にやっていないから、誤解的なケースが多いと思う。それは、ちゃんとやっていないからだと思う。日本のGSCは様々に既存が広がりつつある。リスクを徐々に削減できる材料はまだまだ少ない。そうした人材をどうやって育てるかが大切だと思う。

GSCの事務局は、技術戦略推進機関（NEDO）のお世話になっている。NEDOの実務担当者は、国内の関係者を両面から調整が必要なのだろうと思う。

産業界に対する一般市民にわかりやすく目に見える形で貢献することも、GSCネットワークの役割になるかもしれない。ものづくりの意識は、昔は誇りがあったが、今は、ものづくりの意識は、昔は誇りがあったが、今は、ものづくりの意識は、昔は誇りがあったが、今は、